

(1)児童の体力の現状

○長座体前屈において、男女ともに全国平均を上回っている学年が多い。特に5年男子は全国平均と比較して5ポイント以上上回っている。
○5年生の反復横跳びにおいて、男女ともに全国平均を上回っている。特に女子は全国平均と比較して3.3ポイントと、大きく上回っている。
○5年生の意識調査において、「運動が好き」「失敗を恐れなくて挑戦する」に肯定的な回答をした児童が、男女ともに全国平均を上回っている。

●ソフトボール投げにおいて、男女ともに全国平均を下回っている学年が多い。特に学年が進むほど、全国平均との差が広がる傾向がある。
●5年生の握力において、男女ともに全国平均よりも大きく下回っている。男子が5.5ポイント、女子が3.2ポイントと、全国平均と比較すると大きな差がある。
●5年生の意識調査において、「家の人から積極的に運動のすすめがある」に肯定的な回答をした児童が、男女ともに全国平均を大きく下回っている。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

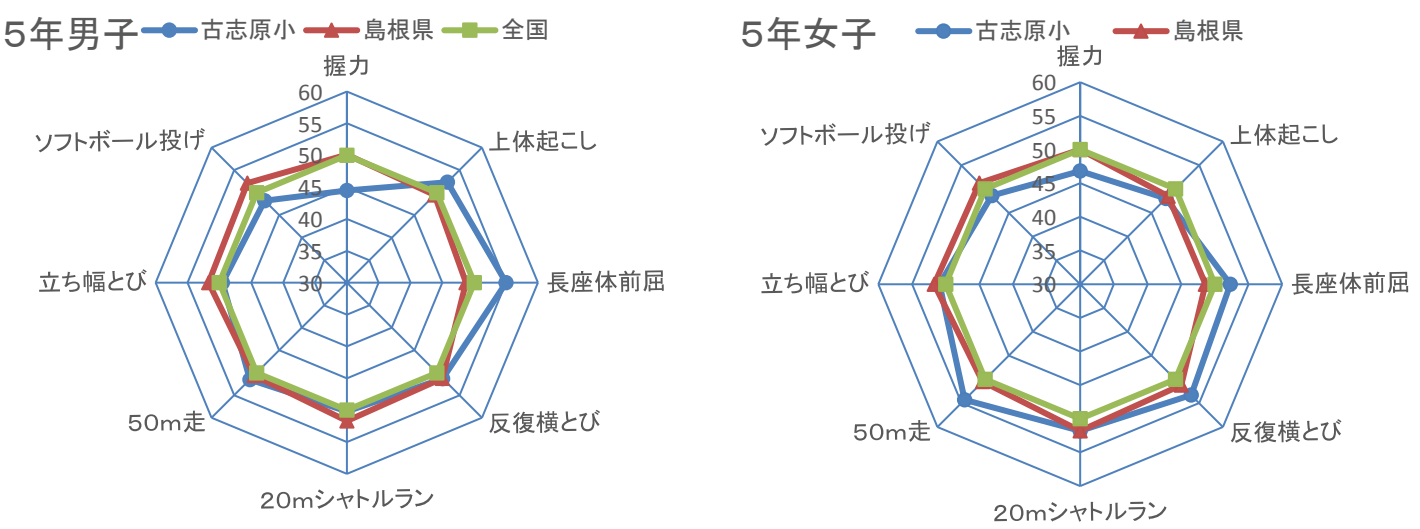
○年間指導計画に基づいた「指導内容系統表」「古志原小体育バイブル」「〇月の体育」や師範授業の実施によって、指導法や授業のマネージメント方法等について情報共有することができ、授業の充実につながった。
○備品の整備、体育委員会が主催する「スポーツ大会」の実施等により、休み時間に体を動かして遊ぶ児童が増えた。

●鉄棒については、各学級で取組を行い、多少の伸びが見られたものの、来年度に向けて、さらに授業改善や児童が鉄棒に多く触れることができる環境づくりが必要である。
●2学期末に実施した意識調査において「週に2回以上運動をする」児童がやや減った。特に低学年の運動頻度が低いという現状は変わらなかった。来年度に向けて、運動好きの児童を増やすための取組が必要である。

(3)31年度の取組【対策】

- ①学校における取組
- ・「ボール運動系」に重点を置き、職員研修や実践事例の伝達等を通して授業改善に取り組み、児童が投げる力を身に付けられるようにする。
 - ・校内体育部を中心として、鉄棒運動についての具体目標を見直し、31年度も継続する。職員研修や実践事例の伝達等を通して授業改善に取り組む。児童が鉄棒に触れる機会を増やすため、折りたたみ式鉄棒の増設、パットや「くるりんベルト」等の備品の整備を行う。
 - ・中学校区で、倒立系種目について具体目標を設定し、調査を行うとともに、これまで重点的に取り組んでいる五種目歩走についての取組を継続する。
 - ・児童会主催のスポーツ大会を積極的に実施し、児童が「運動する楽しさ」に触れることができるようにする。
- ②地域や家庭との連携による取組
- ・学校での遊びや運動の様子を地域や家庭に向けて発信するとともに、運動の啓発を行う。
 - ・各学年行事に、スポーツを取り入れ、親子で楽しく運動ができる場を設定する。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
- ・学校保健委員会で「食」をテーマに、児童の実態から課題を見出し、健全な食習慣の定着を目指した取組を行う。
 - ・小中一貫教育での食に関する指導(「手作り弁当の日」等)の取組を継続する。

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

